

スクランプ需給は輸入地金下落などで荷余りか

橋本 健一郎 氏リポート②

七月前半は、五月に発動されたルーサルへの制裁に伴う供給不安、米ダウが米企業の好業績期待から上昇したことなどのプラス材料もあつたが、中国商務省が米国が追加関税の対象となる二、〇〇〇億ドル(約二兆二、〇〇〇億円)相当の中国製品のリストを公表したことを受け、「必要な報復措置を取る」とする声明を発表したこと、英国のEU離脱期限の来年の三月二十九日を前に担当閣僚が二人もやめるなど混乱していることなどを嫌気しLMEアルミ相場はDOWN、七月十五日時点での二、一〇二ドル(セツル)と月初価格から五一ドルDOWNの前半締めとなつた。

後半は米財務長官が金曜夜、対Russia制裁解除に向けてオーブンに構えるとの発言などプラス材料もあつたが、トランプ大統領によるFRBへの介入発言、米国の輸入自動車関税二五%賦課が年内にも発動するとのニュースなどを嫌気しDOWN、八月三日現在LME(セツル)二、〇二三ドルと後半スタート価格から一〇七ドルDOWNしてのスタートとなつた。

◆月間のドル/円レート (TTS)

一一〇・八八→一一一・〇三(円)

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、自動車生産台数(軽除く)は前年比四・六%増の七二万五、二二六万台で前年同月比四・六%増となり、三ヶ月連続

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比一・二%増の二八万台、一、八七六台。

◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比七・一%減の八万一、二七五戸であつた。

◆貿易関連指標

財務省貿易統計によれば、輸出はアルミニ新地金が前年比七一・三%増の六六八t、二次合金が二九・一%減の一、六八六t、スクランプが二五%減の八、四八五t、アルミ缶が五%増の六、一二八t。輸入は新地金が前年比一一・九%増の一五万八、七〇八t、二次合金が一八・三%減の九万

輸入

輸入は新地金が前年比一一・九%増の一五万

四、四一五t、スクランプが一二二・八%増の一、

一〇三t、合金スクランプは二・八%減の三、二六八t。

■前月の国内指標

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比四・二%減の一七万六、九二三tと六ヶ月連続マイナス。

日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前年比五・六%増の七万〇、九三二tであった。

■概況

五月の四輪車生産台数は七二万五、二二六台で前年同月比四・六%増となり、三ヶ月連続増加。

輸出は四一万二、一五六台で前年同月比二・一%減。

【自動車販売】

七月の四輪車生産台数(軽は除く)は二八万一、八七六台で前年比一・二%増と、三ヶ月ぶり增加。

このうち、乗用車一・二%増、貨物〇・二%減、バス三三%減。

【住宅着工数】

平成三十年六月の住宅着工戸数は八万一、二七五戸で、前年同月比で七・一%減となつた。また、季節調整済年率換算値では九一・五万戸(前月比八・二%減)となつた。

・平成三十年六月の住宅着工戸数は八万一、二七五戸で、前年同月比で七・一%減となつた。また、季節調整済年率換算値では九一・五万戸(前月比八・二%減)となつた。

・引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

【アルミニウム押出品生産数量】

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比四・二%減の一七万六、九二三tと六ヶ月連続マイナス。

【板類】

(押出類)
生産・出荷ともに六ヶ月ぶりにマイナス。

(六面へ続く)

(四面より続く)

【アルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績】

前年比五・六%増の七万〇、九三三一tと九力月連続プラス、出荷は一・七%増の七万〇、三三一tと九力月連続プラス。このうち、出荷先別では、鋳物三・二%増、ダイカスト一・三%増、板一・六%増、押出一・九%増、鉄鋼二三・七%増、合金地金メー

カ一二・二%減。

【輸出】アルミ新地金が前年比七一一・三%増の六六八t、二次合金が二九・一%減の一、六八六t、スクラップが二五%減の八、四八五t、アルミ缶が五%増の六、二一八t。

【輸入】アルミ新地金が前年比一一・九%増の一五万八、七〇八t、二次合金が一八・三%減の九万四、四五五t、スクラップが一二・八%増の一、一〇三t、合金スクラップが二、八%減の三、二六八t。

【見通し】

・自動車は生産が四・六%増。国内販売台数が前年比一・二%増。生産が三ヶ月連続プラス、販売が三ヶ月ぶりプラス。

販売増が継続するかどうか今後に注目。
・住宅着工の動向については、前年同月比で七・一%減と三ヶ月ぶり大幅マイナス。大幅減が続くのか今後の動向に注目。

・アルミ圧延・押出品生産数量

板類・押出品合計は前年比四・二%減の六力月連続マイナス。今後更にマイナスが続くかの動向に注目。

・アルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績

前年比五・六%増の七万〇、九三三一tと九力月連続プラス、出荷は二・七%増の七万〇、三三一tと九力月連続プラス。今後も

プラスが続くか注目。
・アルミ輸出は、地金はアメリカの輸入規制に伴う地金高思惑を受けて大幅増加、スクラップは価格急落による塩漬け玉状態で減少、アルミ缶は内需の荷余り感から増加。の割安感から増加、合金系は減少。

【スクラップ需給予想】
流通在庫は前月に続き中国塊の下落を受けてスクラップも連れて下落しており、売り玉が多いものの、買い手は少なく飽和状態。需要面に関しては前月に続き自動車の販売が低迷していること、輸入地金の下落、夏季休業を受けて荷余り状態になるのではないか?

【価格・為替予想】

今月は米貿易戦争と対Rusail制裁の

動向に左右される。

米貿易戦争に関する中国商務部が「米国の貿易に関する脅し、いじめは理解できず報復措置を取らざるを得ないと」の発表!トランプ米大統領も七月に公表していた二、〇〇〇億ドル分の中国製品を対象とした対中制裁の関税率を当初の一〇%から二五%に引き上げるよう米通商代表部(USTR)に指示するなど貿易戦争の長期化の様相。対Rusail制裁の動向に関しては、米財務長官が金曜夜、対Rusail制裁解除に向けオーブン構えるとの発言したことを緩和に向かうのではないか。

これらを踏まえた八月のアルミ価格は、米貿易戦争で両国間で歩み寄りが見られ、対Rusail制裁解除が決裂した場合、二、〇〇〇ドル付近。両条件が揃わなかつた場合、現状から一、〇〇〇ドル付近まで下落するとの予想。

為替は、前記材料からドル円値は一一〇円、一一二円(TTM)台を予測。

・スクラップ購買価格に関しては五円安、一〇円安程度と予測している。

EUの財政規則尊重は優先事項でない

イタリアのディマイオ副首相は六日、同國の新政権にとって欧州連合(EU)の財政規則を尊重することが優先事項ではないと述べた。ただ改革の実施を妨げなければ財政規則に従うよう努めたとした。

ディマイオ氏は国営放送RAIのインタビューで、EUが設定した条件に反することなく改革を実施するよう努めるとして、「われわれの優先事項は、国民と国民の二一下子だ」と語った。

財政赤字の対国内総生産(GDP)比上限をEUが設定した対三%とするなどを無条件の責務だと考へるかとの質問に対しても、財政規則の尊重を理由に改革を「実施できない」と言うことはできない」と述べた。

ディマイオ氏の発言のイタリア国債利回りへの影響は現時点ではみられない。セラ紙に対し「赤字拡大の回避に全力を尽くし、規則をすべて尊重するよう努める」とした上で、世帯の支援または崩壊という選択肢に直面した場合、上限三%の順守は必ずしも従うべきルールではないとの考えを示